令和６年度 第２回 島田市認知症対策検討委員会

開催日時　令和７年３月 12 日（水）19：00～20：15
開催場所　島田市役所　大会議室西（３階）
出 席 者　【委員】

島田市医師会	田口　博之（会長）
島田市医師会	小塙　聡司（副会長）
榛原医師会	高木　勇人
島田市薬剤師会	清水　雅之
榛原薬剤師会	進士　寿子
地域包括支援センター（第一）	守谷　理恵
地域包括支援センター（第二）	大石　鑑子
地域包括支援センター（六合）	鈴木　三奈
地域包括支援センター（初倉）	小笠原　直美
地域包括支援センター（金谷）	杉山　葉子
デイサービス（デイ御仮屋）	杉本　雄
認知症家族の集い（会員）	鈴木　陽子
認知症家族の集い（会員）	戸田　奈津子
島田市民生委員児童委員協議会	渡辺　誠

【事務局】

包括ケア推進課長	大久保　勉
地域支援係長	米澤　美晴
保健師	齋藤　夢歩

１　開会

２　包括ケア推進課長あいさつ

本日はお忙しい中、令和６年度　第２回島田市認知症対策検討委員会にご出席いただき、ありがとうございます。また日頃は、島田市の介護保険事業をはじめとする高齢者福祉施策にご理解ご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。
さて、第１回目の検討委員会では、「しまだ認知症ケアガイド」の内容につきまして、活発な意見交換をいただいたことで、行政側だけでは気づくことができない、多くのご意見を得ることができました。本委員会の他、認知症サポート医連絡会や認知症地域支援推進員連絡会、家族会など多くの方々にご意見をいただき、それらの意見を参考にケアガイドを作成し、皆様のお手元に配布をさせていただきました。

今回はこの完成したケアガイドをどのように活用していくかについて、皆様に意見交換をいただきます。作成して終わりではなく、これからこのケアガイドをより効果的に活用するために、様々な立場におられる皆様から、貴重なご意見をお聞かせ

いただきたく思います。

また、今回の委員会が任期最後の会となります。お忙しい中、２年間任期を務めていただきまして、誠にありがとうございました。本日もどうぞ、活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

３　会長あいさつ

皆様こんばんは。本日はお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

４　報告・検討事項

（１）島田市の認知症施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料１

（事務局）（72）認知症サポーター養成事業について、これまで主に学生を対象に実施をしており、毎年校長会にて依頼を行っている。しかし、学校のカリキュラムの都合により、なかなか養成講座の実施数が振るわない状況。今後は学生に加えて、認知症の親をもつ世代となる、働き世代をターゲットに企業に向けても働きかけを検討していきたいと考える。また、10 人以上の団体であれば養成講座の出前講座が可能。希望があったらぜひ高齢者あんしんセンターまでお問合せいただきたい。

（90）認知症地域支援・ケア向上事業の認知症カフェについて、現在６か所の認知症カフェが設置されている。認知症カフェはコロナ禍により、縮小や中断してしまった箇所もある中、認知症地域支援推進員様やチームオレンジメンバー様にご尽力いただき、地域の実情に応じた認知症カフェの運営や立ち上げがされてきた。

認知症当事者の方が集い語り合う本人ミーティングを昨年度初めて実施し、昨年度は計２回の開催を実施。今年度からは本格的に実施し、定期開催として計３回開催し、５名の当事者の参加があった。思い出を振り返る回想法のほか、現在の治療や重症化予防について話が出た。ミーティングの中で重症化予防のため本人ミーティングで予防につながる楽しいイベントができないかと話が出たため、追加で３月 25 日に第４回の開催を予定。参加者自ら意見を出していただき、輪投げなどのレクリエーションを当事者以外に家族も交えて行う予定。まだまだ開催はじめの段階のため、参加者が自らが希望する内容を実施できるような会にしていき、当事者の輪が広がっていけたらよい。対象となる方がおられましたらぜひご紹介いただきたい。

（２）地域包括支援センターの認知症施策に関する取組・・・・・・・・・・・・・・・資料２

各包括から説明

（委　員）　当センターでは認知症にやさしい地域作りを目指し、今年度は、若い世代に認知症の理解を深めていただくため、高校生を対象に、認知症サポーター養成講座を開催した。今回行った中で、学生向けのプログラムを工夫する必要性があると感じたため、来年度また取り組んでいきたい。

チームオレンジの連絡会は、年４回実施。今年度は具体的な活動ができてなかったが、話し合いの中で、来年度「認知症マフ」や「認知症わかるた」などを活用しながら活動を広げていきたいという声が上がっているため、来年度取り組んでいきたい。

認知症カフェはアポロンさんなかカフェとして、今年度は２回開催した。

予防啓発として、MCI という言葉をまだ知らない方が多い中、70 代 80 代は認知症予防の意識に対して意識が強い方が多いため、MCI についた取り組みやデュアルタスクの実施をケアガイドを活用しながら活動をしていきたいと思う。

（委　員）認知症の理解を促進し、誰もが安心して暮らすことのできるまち作りを整備していくという目標のもと実施。

チームオレンジのきずなと共同で現状報告と認知症カフェの立ち上げについて検討するため、キャラバンメイト連絡会を年 2 回開催をし、検討したかったが、チームオレンジのメンバーの本業が忙しくなってしまった関係で活動休止状態になっている。キャラバンメイト連絡会は今年度は年 1 回の開催。課題としては、新たなキャラバンメイトやチームオレンジの担い手を見つけていく必要性があると感じている。

認知症を正しく理解してもらうために教育機関、企業福祉事業所に働きかけて認知症サポーター養成講座の案内を配布し、4 回の実施を目標としていたが、学校からの依頼は 1 校のみであった。第二地区はもともと小学校の依頼がかなり多かったが、学校のカリキュラムがかなり忙しく、認知症に特化したものよりは、他の目線で勉強したいという学校の事情もあった。

今後は学校側に高齢者の課題をアピールし、認知症の理解をしていただく必要性があると感じている。次年度は案内の配布は継続して行うが、年齢を問わずに若い世代からたくさんの方に認知症サポーター養成講座を受けてもらいたいので、配布場所を改めて検討していきたいという話が出ている。

（委　員）地域で認知症の方を支えるような体制を構築するという目標で実施してきた。

他世代に認知症を正しく理解してもらうため、認知症サポーター養成講座は、小学校中学校の実施に加え、六合地区の商業施設、郵便局やスーパー、コンビニなどを回り、認知症サポーター養成講座の必要性についてお話をした。金融機関は、過去に企業として、講座を受けている方たちもいたが、メンバーが新しくなって、またぜひやってほしいといった声があったため、来年度企業を対象に実施していきたい。

認知症カフェとして、東町オレンジカフェをあったか広場で実施している。常時大体 20 名の方が集まる。最近は認知症の方を支えるご家族の方のお話があり、生の声を聞けたことが、参加者からもすごく良かったと声があったので、また継続していきたい。

（委　員）次世代に認知症の理解と対応の周知ということを目標に取り組んできた。

チームオレンジ連絡会は予定通り、年 6 回開催。

認知症サポーター養成講座は、小学校は予定どおり実施できたが、カリキュラムの関係で

中学校からは断りがあった。企業もちょっと時間は取れないとのことで、難しかった。次年度は地域での開催を検討し、積極的に取り組んでいきたい。

認知症カフェに関しては、「つながる広場くらら」で子供食堂開催時に相談ブース

を実施したが、件数が 0 件だったため、一旦の認知症カフェは閉じて、評価の見直しを行った。次年度、新しい形で開催するよう計画している。今年度から開催している初倉カフェは、現在までに 3 回、来週もう 1 回やるため、予定通り 4 回実施となっている。

（委　員）目標としては認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく生活ができるようにサポート体制を整えていくことを目標としている。

認知症サポーター養成講座は 1 件のみだった。開催については学校に出向いて呼びかけを行ったが、実績には繋がっていない。引き続き若い世代等、企業を含めた学校に周知活動をしていきたい。

認知症カフェは、毎月第 3 土曜日に開催しており、定着している。チームちゃっきりの協力のもと、包括職員と交代しながら開催している。認知症予防として認知症の方も含めて自分の役割を見つけるという目標のもと、かなうぇるで花壇作りを実施。3 月 15 日にも春の花植えを行っていく予定。今後も参加者の意見を聞きながらや実施していきたいが、課題として、参加メンバーが決まってきているため、さらに呼びかけをして参加者を募集していきたいと思っている。

（事務局）川根包括の報告を代読する。

様々な世代に認知症に対する正しい知識と理解を広げ、地域で支え合う担い手づくりを目標に取り組んでいる。川根地域は高齢化率 50%を超え高齢者も地域の担い手として共に支え合う必要に迫られており、「認知症となった方を周りで支えていく」という支援だけではなく、「周りで早い段階から認知症が進まないように協力して関わっていく」という意識が持てるように啓発している。

包括支援センターへの相談だけではなく、しまトレや居場所、認知症カフェなどの地域の集まりの他に民生委員や開業医、調剤薬局にて広く早期の認知症状の拾い上げを行っていただいている。高齢者が自分事として「理解力の低下や記憶力の低下」を実感し予防意識を持っていただくことが重要。例として川根地域では車の運転は生活する上で必要性が高いが、「認知症と言われたら車の運転ができなくなるから、自分は認知症ではない」という意識が「理解力や判断力の低下を感じるようになったから、今のうちに認知症予防に取り組まなければならない」と変わるように関わっていく。MCI（初期認知症状）の方に対し、しまトレや短期集中による機能訓練など運動を組み合わせ、一体的に認知症予防の習慣を定着させる活動への参加を促していく。また小学校の福祉学習では川根地区の高齢者が地域生活のために、早期に自ら認知症予防に参加しているという、地域特性に合わせた工夫や取り組みを知ってもらっている。

地域に合わせた啓発の取り組みが、しまトレや認知症カフェの会場増加や介護予防デイサービスの新設に繋がっている。

5　意見交換

（会　長）今回は第 1 回の対策検討委員会で意見交換を行いました島田認知症ケアガイドについて、完成後どのように活用していくべきか皆様からご意見をいただきたい。

まずケアガイドの説明を事務局からお願いします。

（事務局）　第１回の対策検討委員会で意見交換をいただいた、「しまだ認知症ケアガイド」が完成したため、配布する。今回の発行部数は１，０００部となり、増刷等は今後の配布数によって検討していく予定。また、ケアガイドの PDF 版を島田市ホームページへの掲載を予定している。

（会　長）先ほど事務局から説明があった内容や資料 3 の内容を参考に、活用方法についてご意見をお願いしたい。

第 1 回ではこの 6 ページの認知症サポート医の欄が空欄になっていたが、それぞれの医院に掲載許可をいただけた。

また、認知症サポート医連絡会においても、配布場所を検討し、診療所や市役所をはじめ、公の場所に配布するという意見が出た。また、ケアガイドの一部のページを拡大してポスターのように掲示するなどの意見や部数が 1000 部ということでどこでも置けば良いというわけではないという意見もあった。

配布場所やそれぞれの立場での活用方法があったら意見を伺いたい。

（委　員）クリニックに置いていただき、ぜひ診断された段階で配布していただけると包括としてはありがたい。その際包括の方に、ケアガイドを持って来ていただけるとありがたい。

（委　員）家族やご本人が包括支援センターに相談に来た際に、ケアガイドを活用していきたいと思う。

（委　員）デイサービスの場合、なかなか地域の方と関わることは少ないが、その中でもデイの間で運営推進会議があり、その中で認知症の知識が地域の方に伝わってないという印象がある。

そこで、デイの場合だと、運営推進会議で組長や自治会長に配布したり、近所の企業の方からどうやって介護すればいいとか相談を受けたりするため、そのようなときにケアガイドを配布できたらいいと思う。

（委　員）知り合いで、家族の状態を聞くと、認知症なのではないかと思う場合がある。その知り合いの人に病院に早目に行った方が良いと伝えるが、本人は拒否するそう。

それこそ 3 ページなんか見ると早期の受診が大切なわけと書いてあり、その意味は良くわかるが、まだ自分自身では認知症を認めない場合にどのように持っていったらいいのかと考える。

（委　員）私の父も認知症で薬をもらっているが、P6 の医療機関以外でもらったりしている

ため、掲載されている医療機関だけではなく、他の病院でも付き添いの家族の方に渡してほしい。

（委　員）周知方法として、企業が行っている教育の中に認知症を取り込んでもらうようなモデルを作れば、継続していくのではないか。

配布場所は、P6 に書かれている５つの医療施設と行政の福祉課、６ヶ所の地域包括支援センターが必要だと思う。そこで認知症に関する相談が来たとき、必要な人に渡せば良い。誰にでも渡しているとなくなっちゃうので。PDF でも載せてくれるというので、画面上でダウンロードしてもらうのも、若い世代には良いかと思う。

民生委員としては、相談者がいたときに高齢者あんしんセンターに繋げるものだから、相談者本人がケアガイドがあるから欲しいといえば届けることもあるが、民生委員から誰にでも渡してはいけないので、必要に応じて配布したい。

（委　員）市役所にいろんな人が来ると思うので、市役所での配布や、高齢者講習を受ける自動車学校にも置いたらどうか。

病院受診をしない方について、一度も受けていない脳ドックを進めてみることをきっかけにするような説明を行う。

（委　員）包括に置かせていただけたらありがたい。やはり相談の中で、明らかに認知症状の疑いがある方が多いが、家族は長年一緒に生活をしてきているため、変化に気づいていない場合がある。出てくる認知症の症状が細かく書かれているので、ケアガイドを見てもらいつつ、理解を促すことで、受診に繋げていけたらいいと思う。

（委　員）見守りネットワークに入っている企業があると思うが、その企業の方々に配布することを一つだと思う。

また、このガイド自体が以前からあるのにも関わらず、知らない方たちがたくさんいる。実際介護の現場でも知らない方いると思うので、介護の事業所にも 1 冊ずつ配布すると良いと思う。

（委　員）ふれあい事業のでは、認知症になりやすい人や既に認知症の方が多いと思うのでそこに配布するのが一番手っ取り早いと思う。その他は包括支援センターに置くといいと思う。

（委　員）薬局に来る方には、認知症の治療がされていなかったり、当事者じゃなくても家族や近所の方々に認知症ぽいという人の相談をよく受けるので、そういった中でケアガイドを置いていただければ、薬局でターゲットを絞った形で配布することは可能だと思う。

ケアガイドの中で、この 5・6 ページにある包括支援センターと、認知症サポート医の情報はとても重要なので、ここの部分だけでも、伝えられたらいいっていう方は、かなりたくさんいる。パンフレットじゃなくても PDF があるのならば、当該ペー

ジを印刷した形で案内することも、やり方としてありだと思う。

（委　員）ネットでの配布に関して、比較的若い方だとスマートフォンやタブレット等持っている方が多いので、この 1,000 部の配布とは別にケアガイドの QR コードを貼り付けたポスターを作って、直接データをダウンロードしたり、詳細を見ることができるようにし、ポスターをいろんなところに貼って気づいてもらうようにすると良いと思う。

（副会長）認知症サポーター養成講座で、小学生がこれを見るのは少し難しいと思うが、中学生以上の方や、企業の方などに、サポーター養成講座で配ったらいいかと思う。もし足りなくなるようだったらその QR コード付きの紙を配布するみたいなものでも良いと思う。

（会　長）認知症サポート医の連絡会でもケアガイドを掲載するホームページの QR コードを配布するという意見があった。

いまさらだがケアガイドにも QR コードを付けるのも良いかと思う。紙のケアガイドとホームページ載せるデジタルの情報について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）QR コードで島田市のホームページに飛ぶことを想定している。ポスターは検討段階。

（会　長）ポスターはどの程度の大きさか。QR コードだけが載っているものを、医院においてもらうということか。

（事務局）サポート医連絡会でもポスター作成の意見を賜った。本委員会でも要望を確認し、実施を検討していく予定。サイズやどこに配布したらよいかなども意見があれば伺いたい。

（委　員）QR コードを載せて、ケアガイドがあるというポスターを A4 のチラシでつくったらどうか。

（委　員）デジタルの部分も活用していかなければいけないと思う。島田市は SNS をいくつか運用されてると思うので、その中でケアガイドの記載内容を説明する個別の投稿をしてはどうか。例えばケアガイドの 1・2 ページも簡単に書いてくれているが、まだ難しい部分もあると思うので、SNS でもっと簡単に情報を届けていくことで、内容の理解も含めて、進めることが可能だと思う。

（会　長）1・2 ページ目の情報の不足や難しすぎるのではないかということは、常に出る意見だと思うが、デジタルの場合は読みたいところだけ読むことができるので、もっと詳しく書くなど、読まない人は飛ばしてもいいかと思うような内容でも良いと思う。

ケアガイドの内容とまるで同じではないものを発信していくのはどうか。

（事務局）ホームページに掲載するときの内容は業者に委託して作成してもらっているため、著作権の問題で、紙のケアガイドと同じ内容になってしまう。

（委　員）例えばインスタグラムが運用されていると思うが、その中で 1 ページ目をわかりやすく解説してみましたというような形で、投稿を重ねていくような形であれば、内容は変えなくても良いのではないか。例えば、今回は子供にもわかりやすく、レビー小体認知症を伝えるというような投稿を繰り返していくことは、特にアイディアだけで、あとは統合できるかと思う。

（委　員）もしデジタルをというのであれば、おそらくこういった認知症のケアガイドを見ると、住民の方は本人は少ないかもしれないですけど、ご家族に認知症を疑う方がいて、本当に認知症なのかなっていうのを疑問に思っていると思うので、例えばそのホームページで、「認知症を心配されている方向け」みたいに書いて、20 個程項目を作って、物忘れが多いや、同じことを繰り返し言うなどの症状がある、というのを選んでいくと、認知症の疑いがあるので医療機関に受診するように、もしくは、この方はおそらく大丈夫、というような判断が出てくると良いと思う。

（会　長）いろんな意見をいただき、実現可能かどうかは今後可能になるように検討していくと良いと思う。今回の意見を参考に、認知症ケアガイドの活用に進めていただきたい。

今回の委員会が任期最後の回となります。

次年度以降の委員会や認知症施策に生かしていくために 2 年間委員を務めていただいた中で、気づきや感想をいただきたい。

私は、こうやって顔の見える関係でお話できたことで、今のような活発な意見をいただき、その結果このような良いケアガイドができたことなどがやっぱり良かったと思う。

（委　員）今回のケアガイドがすごくまとまっててわかりやすいかと思うので、あとはこれ、実際にどのように周知していくか、そこさえできれば、住民の方もいろいろ知識を得られると思う。

（委　員）なかなか高齢化は止まらないので、認知症もどんどん増えていく印象があるけれど、ここで皆さんと顔の見える関係を作って、それぞれの職場職種をうまく生かしていける場になっているんだろうと思う。また、こういった場で、どんどん多職種連携が広がっていければいいと思う。

（委　員）私は今回で、この委員を終わりになる、次の方も決まっている。今までありがとうございました。私事だけれど、95 歳の親族の介護をしており、介護と言っても介護保

険も入っていないが、認知症症状が強い状態。家族の方の気持ちがわかってきて、自分でも怒っちゃいけないと思っても、怒ってしまう部分がつい最近でもある。何も言わずに、はいはいと聞いてるだけが一番いいのかなとも思ってしまう。実際に本人も自分が忘れっぽいっていうのはわかってるようで、辛がってることがわかってるので、この会でいろんな人の意見を聞かしていただき、すごく参考になった。

（委　員）認知症の理解がだんだん進んでいるというのは、日々感じているが、まだまだ理解が薄いなというのも感じている。包括支援センターとして、このガイドをどうやって周知していくか、どうやって活用していくかを、また考えていきたいなと思った。

（委　員）認知症の方を介護されている方の意見や、医療従事者や介護現場の方、他の地域の包括の話を聞きことができて、本当にプラスになることが多い。第二包括に戻り、自分の職場でも生かし、繋げることができた二年間だと思う。

（委　員）認知症サポーター養成講座をやっていて、小学 4 年生の講座終了後のアンケートを読むと、小学 4 年生の立場で今自分たちに何ができるかを考えており、自分も気づかされることがある。やはりその年齢に応じて講座をすることで、色々気づくことができるので、若い世代にも知らせていくことが、私達の役目だと思う。このように皆さんといろいろ意見交換する中で、自分も学ぶことがたくさんある。これからもよろしくお願いします。

（委　員）この会議に参加するまでは、あまり認知症のことには興味なかったが、実際にいろいろ話を聞きながら勉強させてもらいました。民生委員活動の中では、一人暮らし高齢者に対し、食事・睡眠・運動習慣のバランスをよくするように言っている。あと頭の体操。自分で紙にやることを書き、配布している。

　認知症は対策も判定も難しい中で大変だが、やはり皆さんの力でやっていくしかないと思う。

（委　員）委員になってからもう何年も経ってて、また来年度も、委員を続けさせていただく予定。母が認知症になって 14 年介護して去年見取った。最初の頃から口もきけなくなって、自分で何でもできなくなるような症状が重くなるまで、長いこと見てて移り変わりを見てきてるので、いろんなアドバイスができると思う。

　認知症家族の会を毎月 1 回、この市役所の会議室で行っている。みんな認知症の方をお世話した経験のある方 OB の方や、今現在の介護されてる方もいて、いろんな相談をその場で解決したり、ときにはストレス発散じゃないが、一緒に食事に行ったりして、みんな言いたいことを言ってすっきりしたって言って帰っていくというような場にもなっている。そういう場があるということを、それぞれ相談に来た方にもっともっと広めていただきたいと思う。

（委　員）実の母が認知症になり 15 年。5 年ぐらいは家で看ていたが、残りの 10 年はグルー

プホームにお願いした。去年の１月に他界して、だんだん母の移り変わりを見ていると、認知症によってこういうふうになっていくということが、寂しくつらく思った。

また、100 歳の主人の母を見ていて、認知症はないけれど、年相応の体の衰えがあり、できる限りやって悔いのないように送りたいと思う。

（委　員）私自身も貴重な意見を伺え、参加させていただいき良かったと思う。今回素晴らしいものができたので、これが広まるように、私自身もやっていきたいと思う。

（委　員）ケアガイドがいいものができて、すごいと思う。包括として、何かこれを生かしていきたいなと思う。またどこに行っても認知症という言葉が出てくる。やはり包括として何ができるのかと思ったときに、予防も大切だと思っている。金谷地区には地域団体が結構ある。そちらに出向き、脳トレやレク、予防の発信などを力入れていきたい。

私も実母を今介護している。心不全で入院しその後はノロウイルスになり、また入院し、今度はコロナにかかり、その後遺症なのか寝たきりになった。せん妄もあるのか、天井から蜘蛛が出てきたとか、昨日は蟻が入ってきたと言ってくる。それに対し冗談を言って過ごしているが、受け止めちゃうと自分が切なくなってしまう。自分が子供のころ、しっかりしていた母が今だんだん弱ってくるのを見て、本人がすごく切なく、つらいと思う。自分の変化もわかっているようで、やはり本人は認知症になった時に、気づかないのではなく、気づいてるのだと、最近実感している。

（委　員）前回と今回で 2 回出席した中で、かなり活発な意見交換があり、素晴らしいケアガイドが出来たと思う。ぜひこれからこれを生かしていくのが私達の役目だと思っているので、ぜひ生かしていきたいと思う。

長くから病院で看護師をやってきたが、この半年、こんなに認知症のことを考えたことは初めてなので、また 1 からやっていきたいと思う。

（副会長）今回の会議をもってこの会を辞させていただく。最初認知症に関わってきたときがですね、10 何年前。その頃は、2025 年問題と言われ、このときには、もう認知症が爆発して、介護とかも全然成り立たなくなる、どうしたらいいんだということがあり、その中行政や包括など皆が一緒になってこれに対して、戦っていかなくてはいけないっていうような気持ちで、ずっと来たが、今 2025 年何とかなっていると思う。そんなに悲観的なところでもないし、島田自体の認知症こんな立派なケアガイドもできていて、予防の方まで今度行こうというような、次のステージに向かってきているというところがある。ちょっと刷新感がある方が良いと思った。皆さんお疲れ様でした。

（会　長）また新たな気持ちで考える機会をいただいた。本当にありがとうございました。今後ともどうかよろしくお願いいたします。皆様、それでは 2 年間任期を務めていただきましてありがとうございました。今後も認知症になっても暮らしやすい地域作り

を推進するためにご活躍されることを期待いたします。

長時間にわたり、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

６．閉会

（事務局）皆様２年間任期を務めていただき本当にありがとうございました。

今回いただきましたご意見を参考に、来年度からの委員会および認知症施策に繋げていきたい。

また、昨年厚労省から発表された認知症施策推進基本計画をもとに地域の実情に合わせた施策を行っていくよう、令和７・８年度の認知症対策検討委員会の要綱改正も行い、委員についても大きく変更する予定となっている。ご承知お聞きいただきたい。

島田市としても偏見のない認知症にやさしいまちを目指し、今後も認知症施策の推進をしてまいりたいと思う。

今後もご支援のほどお願いします。

令和６年度第２回島田市認知症対策検討委員会を終了いたします。委員の皆様長時間にわたりありがとうございました。